

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
 〒606-8501
 京都市左京区吉田本町
 075-753-5270
www.rakuyukai.org

これまで、これから

前東京支部長 伊藤 八大 (昭54年卒)



先日、富士登山に挑戦しました。しかし、激しい風雨のため八合五勺(標高3,450m)にある山小屋で1泊しただけで下山。残念ながら初登頂は来年にお預けです。

ご挨拶が遅れました。昭和54年学部卒、56年修士の伊藤八大です。今年6月の支部総会にて、1年間務めさせていただきました洛友会支部長を退任しました。

1年半以上、新型コロナ禍のため、洛友会活動は異例続きです。幹事会などは完全リモートで、ま



た、支部総会や講演会は学士会館会場とリモート参加のハイブリッド形式での開催など、幹事の皆さんの努力もあり、ある程度の活動は行えました。リモートゆえに参加できたという方々もあり、悪い面ばかりでなかったのは救いです。一方、支部総会や講演会後の懇親会、趣味の会、拡大クラス会などは、残念ながら殆ど中止・延期となっていました。

やはり、洛友会など同窓会の活動の醍醐味は、会社の枠や世代を越え、直接会ったり酒を酌み交わすなどで、旧交を温めたり刺激を与えあうことにあると思っっています。また、仕事の面でも役立つ情報が得られたり、関係を築いたりすることもあります。早く新型コロナウイルスを克服し、以前と同様の活動ができるようになることを切に願っています。また、リモート会

議や講演会など、新たに手に入れたツールの活用も続けていくことで、より一層の活動活性化が図れる可能性も感じました。

ところで、2019年12月、私は38年と約9ヶ月お世話になった東芝グループを卒業し、洋上風力発電プロジェクトを手掛けているベンチャー企業の一つ(株)グロークルに入社しました。

東芝時代は、電力系統の保護制御について設計、開発、エンジニアリング等に携わり、その後、スマートグリッドやスマートコミュニティなどの新しい分野でも仕事をしました。39年弱のうち、前半は主として国内市場、後半は海外市場をターゲットに活動。IEC、IEEE、ISOなどの国際標準化活動にも注力し、欧米各国・各メーカーが国際規格を活かして優位に事業を進めようとする様を見ましたが、私もささやかながらこれらへ対抗しつつ日本や日本企業に貢献できたと思っています。このため、2004〜2018年は少ない年で延べ50日、多い年は160日(年10回〜18回)も海外出張しているような状態でしたが、英語力も含めて仕事の面で幅が広がった期間であったように感じます。また、2009年頃から取り組んでいたスマートグリッド、スマートコミュニティ等の仕

事では、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーとの関連も多々。そこから風力発電に興味を持ったことが、現在の会社・仕事につながりました。

菅首相の「2050年カーボンニュートラル実現」宣言で注目されましたが、経産省・国交省の官民協議会では2040年までに洋上風力4,500万kWという目標を掲げています。これは、10MW(1万kW)の風車を4,500基も日本近海に設置することに相当。陸上で時々見かける風車は大きくても数MW程度ですから、その巨大さや数の多さに驚かされません。洋上風力発電設備には、海底に基礎を設置する着床式と海に浮かべる浮体式があります。水深約50mより浅ければ着床式が主として用いられますが、深くなると浮体式が主力です。ところが日本近海は遠浅の海が少なく、すぐに深くなります。特に欧州で実績豊富で技術が十分に確立した着床式だけではなく、浮体式の技術確立・実用化が急がれる所以です。また、台風や冬季雷への対応など、欧州よりも厳しい環境に耐える必要もあります。

2030年度には約9,200億円に急増するとの試算があります(矢野経済研究所調べ)。この急速に伸びそうな市場で、国内外の多くの企業が活動を始めています。私ども(株)グロークルもその一つであり、特に浮体式洋上風力発電プロジェクトに注力しています。

現在、私は6MW浮体式洋上風力発電プロジェクトに主として関わっています。NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の実証事業として、北九州の沖合約15kmに設置し、2024年4月に運開することを目指しています。浮体の寸法は縦横約81m×91m、高さはナセルまで約110mであり、風車の翼は直径約141mです。これを海に浮かべると一番高い翼端は水面から約170m。サッカールのピッチ、ほぼいっぱいには広がり、高さは東京タワーの半分以上になるといって巨大システムです。発電、そして電力系統連系や監視制御という電気屋の仕事、そして浮体式ですから船舶、造船という側面など、技術的にみても色々な要素が複雑に絡み合っています。また、経産省や国交省、自治体、漁協、海保、航空局、関係企業などへの許認可、届け出、同意書、調整等々、仕事も多々。私自身、実際

に携わるまにに想像していたよりも、技術面、製造面、手続き面など遥かに複雑なシステムであると感じていますが、その分やりがいもあります。詳しくは紙幅の関係で書けません、お調べいただくか、弊職にご連絡ください。

さて、巻頭言のタイトルは少々軽すぎたかなと思っておりますが、このうち「これから」についての話に移ります。

冒頭の富士登山、映画「最高の人生の見つけ方」に刺激を受けたというわけではありませんが、私の「やりたいことリスト」に残っている一つだったのです。世界各国や日本国内で行きたいところや、やりたいことは、まだまだ多数残っています。

これらの「やりたいことリスト」をクリアするためにも、10年ほど前から心がけていることがあります。『貯キン』です。まず、もちろん『貯金』。ある程度は貯めておきたいですね。それから『貯勤』。仕事もしっかり行い、自分の得意分野を作ることだけでなく、仕事の進め方や人付き合いなども、できれば。

さらに、『貯近』。ご近所や近い方々との関係も良くしておきたいですね。ストレスなく過ごすためにも。もちろん、洛友会など同窓会の活動も、昔懐かしい方々と

旧交を温めたり、新たな刺激を得るなど、人生を豊かにできると思っています。

そして、『貯筋』です。私の両親は十数年前に他界しましたが、晩年は足腰が弱っており、やりたいことや行きたいところなど色々あっても難しい感じでした。それを見ていて、こりゃいかん、私も足腰の筋肉を蓄えておかねば、年齢を重ねてから筋肉を鍛えるのは難しく筋力が落ちないようにするのが精いっぱいらしいぞ、と考える

ゴルフを再開したり、新たなスポーツにチャレンジしたりしました。また、一番嫌いだっただランニングも、58歳から始めました。短距離のジョギングから始め、少しずつ距離を延ばし、フルマラソンも昨年末までの約6年間で50回完走。100kmウルトラマラソンも数回完走。あとボストンマラソンを走ればSix Star Finisher(6大メジャー大会完走)です。コロナ禍で大会が軒並みキャンセルされていますが、早く元どおりマラソン大会が開かれるようになることを願っています。しかし、これほどマラソンにハマるか我ながら驚いている次第。色々なきっかけや、様々なストーリーがあるので、それはまたの機会に。

まだまだ、コロナ禍で大変な状況は続きそうです。将来、やりた

い仕事や遊びを行うためにも、『貯キン』を心がけるのも良いかと思えます。

雑駁な話となりましたが、お読みいただきありがとうございます。早く洛友会活動も含めて日常生活を取り戻せるようになること、ならびに皆様のご健勝を祈念してやみません。

会員寄稿

ドイツ生活情報

山崎 雄一郎

(平14年卒・中部支部)

私は2004年に大学院を修了後、中部電力に勤めています。2017年から約二年間ドイツに駐在をしました。今後ドイツに赴任される方がいらっしゃるかもしれませんので、私の体験が少しでも役に立てばと思い、生活情報を中心に紹介させて頂きます。

① 住居

日本人学校(子供帯同の場合)や病院(できれば日本人医師のいる所)のアクセスを考慮して選ぶとよいと思います。事前に現地在住の方と話ができると、日本人が多く住んでいるエリアがわかると思えます。私は現地の日本料理屋の店員から情報収集をしました。

物件探しについては、私は欧州のリロケーション業者(Santa Fe relocation)を使用しました。デュッセルドルフやミュンヘンなら日本人業者を使うのが便利だと思います。不動産情報サイト(ImmobilienScout24が有名)を使って自力で探す人もいます。

ドイツは車社会ですので、車を手に入れることをお勧めします。私はオートジャパンという日系リース業者を使用しました。日系は価格が高めですが、トラブル時に日本語サポートをしてくれます。費用を抑えるなら地元ディーラーでリース契約するとよいと思います。

⑤ 銀行
役所手続きなどで銀行カード(Girocard)番号を求められますので、ドイツ銀行、Sparkasse等の銀行で口座を作る必要があります。銀行に行つて開設手続きをしますが、最近ではComdirectなどネットで手続きが完結するところもあるようです。ネット銀行のZ26やRevolutは、Girocardではありませんが、安くMasterデビットカードを作れ、実店舗やネットでの買い物に便利です。

② 車
③ 保険
保険は日本人駐在者向けの保険ブローカーを使う方が多いと思います。私は住宅と自動車の保険は、トランススクーラという業者を使用しました。医療保険については、勤務先の規則に従って契約することになると思います。

⑥ ショッピング
(1) 家具
基本的にドイツで買物をする際に日本のサービス品質は期待できません。物を注文したら予定日に届かない、部品が揃っていないことはよくあります。商品交換を希望すると店でなく出荷工場まで行く必要があったりもしました。IKEA等で、自分の目で確認した物を買って、自分で家まで持って帰るのが賢明だと思います。

④ インフラ
電気、ガス、水道については、家を借りる際にリロケーション業者経由で契約手続きをしました。携帯電話回線や家庭用通信回線については、大手通信業者(Telekom, Vodafone, O2)の店舗で手続きできます。最適プランを提案し、接

(2) 家電
SATURNやMedia Marktという有名家電量販店があり大概のものが揃います。Idealoという価格比較サイトで相場を確認できます。

⑤ 銀行
役所手続きなどで銀行カード(Girocard)番号を求められますので、ドイツ銀行、Sparkasse等の銀行で口座を作る必要があります。銀行に行つて開設手続きをしますが、最近ではComdirectなどネットで手続きが完結するところもあるようです。ネット銀行のZ26やRevolutは、Girocardではありませんが、安くMasterデビットカードを作れ、実店舗やネットでの買い物に便利です。

(1) 家具
基本的にドイツで買物をする際に日本のサービス品質は期待できません。物を注文したら予定日に届かない、部品が揃っていないことはよくあります。商品交換を希望すると店でなく出荷工場まで行く必要があったりもしました。IKEA等で、自分の目で確認した物を買って、自分で家まで持って帰るのが賢明だと思います。

(3) 食材

【米】アジア系食料品店で購入できます。イタリア産こしひかり「ゆめにしき」が日本米の味に近くお勧めです。現地では炊飯器を買えないので、日本から持参するか(変圧器要)、現地電圧対応の炊飯器をアマゾン等で購入すると思います。

【水】水道水をブリタでろ過して、飲用、炊飯用にする方が多いです。販売されている水は、硬水が多いですが、ボルビックは軟水で日本の水に近いです。

【魚介類】生のは普通のスーパーではサーモンと時々マグロが売っている程度です。スーパーによつては冷凍食品で鯖の切り身を売っており塩焼きを楽しめます。その他の魚介類については、METROという大型スーパーが充実しています。会員制ですので登録手続きが必要です。また、北海水産という魚介類の通販があります。一定量がないと配送料が高いので何家族かでの共同利用がお勧めです。

【肉】ドイツ人は薄切り肉を食べないので、薄切り肉を買う場合、肉売り場で注文する必要があります。しかし、店員が英語をできなかったり、不審がったりして、断られることがあります。私の経験では、予めドイツ語で作った注文

メモを店員に見せること、不審がられたら薄切り肉を使った料理の写真を見せることで成功率が上がりました。一度成功すれば、その店に通えばよいでしょう。人によつては、肉切り器を購入し自分でスライスする方もいます。

【パン】日本のようなフワフワ・モチモチ食感のパンはなく、ハード食感のパンが売られています。しかし、ドイツのパンも美味しいので慣れると思います。どうしても日本のパンを食べたければ、自分でパンを焼くか、デュッセルドルフやフランクフルトに行けば日本風パン屋があります。

(4) 衣服

街の中心地やショッピングセンターに衣料品店はありますが、私のようにサイズが合わない方もいると思います。そのような方にはドイツにもユニクロや無印良品があり、日本と同じサイズの服を売っているのでご安心ください。ネットでも購入できます。ちなみにドイツ人は日本人と比べてファッション性よりも機能性を重視する傾向があると感じます。

⑦ 日本人ネットワーク

私が出たニュルンベルクには約三百人の日本人が住んでおり、日本人同士のネットワークがありました。そのような日本人ネットワークでは現地生活に役立つ様々

な情報を得られます。子育てや語学学校等の情報交換、食料品の共同購入、サークル活動、パーティーなどの機会を得られると思います。海外赴任者は会社の同僚・前任者から紹介してもらおう、日本人のホームページがあれば連絡する、日本料理店で話をするなどして、早めのアクセスをお勧めします。

⑧ 日曜日の過ごし方

ドイツでは日曜日に店を開けてはいけない法律があります。観光施設も閉まっているので、公園や森で歩く、走る、サイクリングするなど運動を楽しむ方が多いです。私もよく公園でジョギングをして過ごしました。各地で行われるマラソン大会などのスポーツイベントに参加するのもお勧めです。



現地マラソン大会出場時に撮影

最後に、海外駐在は仕事の面もプライベートの面でも日本にいては経験できない貴重な学びや楽しさがあります。一方で、沢山の苦労もあります。ドイツ生活の立ち

上げで躓かないためにも、本情報が少しでも役に立てば幸いです。



ニュルンベルクの教会前にて撮影

朋ありリモートで来る、また楽しからずや

藤本 昌彦

(昭61年卒・東京支部)

昭和61年学部卒、63年修士修了の藤本です。

私が所属する洛友会の東京支部では京大工学部電気系卒業年次を5年毎に区切った「拡大クラス会」が組織され、昭和60年から平成元年卒業生は「洛泡会」と称して2018年度から活動が開始されています。

今年の第3回目の懇親会は7月に開催となりましたが、コロナ禍のためリモートでの開催となり、同期の中村さんが取りまとめ役となつて、参加者がそれぞれ事前に用意した近況報告の資料・写真等を披露するなど、非常に楽しい会の開催という事で、東京支部の

所属ではない大阪在住の、研究室(池上研)で一緒だった北川さんにも声掛けして参加してもらいました。一つ目の写真の上から2段目の中央で両手を上げているのが私で、その左上が中村さん、3段目の一番左が北川さんです。



S63 水本 政宏

Takahiko Tanaka

これを受けて、さっそく池上研OB会もやってみてはと、池上研出身で今も仕事でお付き合いのある清水さんに音頭を取ってもらい、ただ、リモート同窓会はあまり人数が多くなると難しい面もあ



るので、ある程度限定した人数で、8月末に開催となりました。こちらには、ジュネーブのITU（国際電気通信連合）で標準化に携わっている太田さんも参加となり、まさに距離を超えての同窓会となりました。二つ目の写真がそのときの参加者です。太田さんは左上隅、清水さんは右上隅にいます。

私は、大学院修了後、郵政省に入省し、省庁再編により総務省を経て、情報通信技術の研究開発／標準化の推進、強制規格や各種ガイドラインの制定、様々な分野における情報通信の利活用の推進等の業務に携わってきました。現在はシャープ(株)の研究開発事業本部において、8K+5Gをキーワードに研究開発並びにソリューションの提供に取り組んでいます。

大学・大学院では、上述のように池上研に所属し、当時公衆網の移动通信システムは携帯電話の前身のアナログの自動車電話だけだった時代に、移动通信のデジタル化を通じて一人一台の端末保有に向けた研究を行っていました。が、内心では本当にそのようなことが実現できるのかと思いつながらではありましたが、故池上先生の確固たる研究方針のもと、吉田先生や竹内先生にご指導いただき、また何よりも得難い同僚・先輩・後輩と巡り会えたおかげで、非常に楽しい充実した研究生生活・学生生活を京都で送ることができました。

その後移动通信は着実に発展し、池上先生のお言葉通り、アナログからデジタルへ、自動車電話から一人一台の携帯電話へ、さらに電話からスマホへ、音声だけではなく画像・映像をも、と進化し

ました。

このような無線を含む情報通信の進化を背景として、その利活用の推進にも携わりましたが、2007年頃、総務省を含む4省庁で「テレワーク人口倍増アクションプラン」を策定し、「2010年にはテレワーク人口を倍(2割にする)」という目標をたててテレワークを推進しました。テレワークは、業務の効率化、育児・介護との両立、障害者就業支援、地方振興、交通代替によるCO2削減等環境負荷の軽減、災害やパンデミック発生時のBCP対応など、多くのメリットを有するものとして推進しましたが、実際、昨年から始まったコロナ禍においてはBCPの面でテレワークが必須となり、政府は7割実施という目標を掲げて呼びかけを行っていました。コロナ禍が早く収束することを願うところではありますが、これをきっかけに、テレワークを始め様々なリモート／オンラインでの行動形態が社会、生活に大きく浸透し始めたと思われれます。

まだ郵政省の若い頃でしたが、職場の人達との「飲み会」で、「電気通信」が発展するといろんなことが「遠隔」でできるようになるだろうが「飲み会」は無理だろうな、などと談笑してましたが、冒頭紹介のとおり、同窓会もリモート／オンラインで開催する時代となりました。人生の最高の楽しみの一つは、仲のよい友人とともに酒をくみかわし歓談することであるという、孔子の人間味のある喜びを表した「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」という論語の言葉ですが、現代では「遠方にいるままオンラインで来る」ことが可能となり、「朋ありリモートで来る、また楽しからずや」とも言えるでしょうか。

情報通信はまだこれからも発展し、その利活用により様々に世の中は変わっていくものと思われれます。来年は京都大学創立125周年ということで、その記念サイトの中の「各界で活躍する同窓生からのメッセージ」を拝見しましたが、凄く素晴らしいという意味も含めて「面白い」人達がいるなと改めて感じた次第です。私も、卒業生の一人として、情報通信の発展に「面白い」人として寄与できればと願うところです。

ト／オンラインで開催する時代となりました。人生の最高の楽しみ一つは、仲のよい友人とともに酒をくみかわし歓談することであるという、孔子の人間味のある喜びを表した「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」という論語の言葉ですが、現代では「遠方にいるままオンラインで来る」ことが可能となり、「朋ありリモートで来る、また楽しからずや」とも言えるでしょうか。

情報通信はまだこれからも発展し、その利活用により様々に世の中は変わっていくものと思われれます。来年は京都大学創立125周年ということで、その記念サイトの中の「各界で活躍する同窓生からのメッセージ」を拝見しましたが、凄く素晴らしいという意味も含めて「面白い」人達がいるなと改めて感じた次第です。私も、卒業生の一人として、情報通信の発展に「面白い」人として寄与できればと願うところです。

洛友会東京支部長の尾上さん(2枚目の写真の上から2段目、左から2列目)や冒頭紹介の中村さんに頼まれての本寄稿でありましたが、京都吉田神社神官の子であったと言われる兼好法師の「心に移りゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば」という状態になってしまいました。ご容赦

願います。また、文中、敬称として、敬意とともに親しみの気持ちも込めて「さん」付けて名前を紹介させていただきますましたが、現在勤務するシャープでは、皆、「さん」付けで呼ぶこととしており、使ひやすく・好い慣行と感じており、つい本寄稿でも同様にさせていただきますました。併せてご容赦のほどよろしく願います。

皆様には、コロナ禍の中ご自愛いただくとともに、益々のご発展・ご健勝を祈念して、筆をおくことといたします。

と、筆をおこうとしたのですが、本日(9月1日)、総務省から、東京支部長の尾上様(ここでは「様」にさせていただきます)をITUの電気通信標準化局長候補に擁立する、との報道発表が行われました。来年9月のITU全権委員会での当選に向けて、洛友会会員の関係の皆様とともに応援させていただきます。



息子の名前を考える

滝井 健太

(平24年卒・北陸支部)



「はじめまして。たきいけんたといひます。ケンタッキーで覚えてください。」最近、自己紹介をするときには、必ずこう言っています。

自覚したのは、小学校2年生のときです。幼いころは、某ファストフードチェーン店に名前が似ているということで、からかわれるのではないかと思うこともありました。苗字と組み合わせるとそうなるというのを両親はわかったうえで名付けたのか、成長するにつれ、強くそう思いました。今は、こんなにジューシーな名前を付けてくれたことに、感謝をしています。

これまでの人生で親族以外から「けんちゃん」とか名前で呼ばれることはほとんどありませんでし

た。どちらかという苗字のインパクトが強いのか、「たきいけん」とか「たつきー」と呼ばれることがほとんどです。実際、妻は結婚して5年たった今もわたしのことを「たつきー」と呼びます。そのため、名前で呼んでもらえないコンプレックスが少しだけあります。

このような背景があり、我が子たちの名前を決めるときは、周りの人に親しんで呼んでもらえる名前にしようと思いました。

長女ときは、考えるのが楽しかった。妻とどんな名前にするか遅くまで話し合い、漢字は見れば読めるようにしようとか、字画は11+4画が良いとか、でもいつかはお嫁に行くのだから気にしなくていいとか、これだけ考えたのに産まれてみたら男の子だったら：とか。産まれて、顔を見て、いつのまにか決まっていました。想像力豊かな、かわいらしい女性になるように、名付けました。

長男は難しかった。長女ときの経験が踏まえて候補を挙げるものの、学生時代の友人や同年代の近所の子とも同じ名前になってしまい、なんとなく遠慮。さらに、出産も予定日より一ヶ月早く、とにかくバタバタしたなかでの出生届提出でした。太陽のように明るい笑顔で周りを助けられる人にな

るように、名前を贈りました。そして、この原稿を書いている今、3人目が生まれました。コロナの影響で、出産に立ち会うことはできませんでしたが、動画で元気に泣いている姿を見て安心しました。上の子ども達は、突然母親が入院して寂しそうにするかと思っていました。自分の要望を我慢して大人達を気遣う姿も見せてくれており、たくましく成長しているのだなと実感しました。

さて、今生まれた3人目男の子の名前ですが、妻が提案してくれた名前をとっても気に入りました。原稿の締め切りギリギリになってから慌てて執筆するような父親とは違って、心と時間に余裕を持って行動できる人になってくれるように、贈ります。

両親が思い・イメージ・メッセージを込めた名前は、子どもへの最初の贈り物です。子どもがそのプレゼントの箱を開けるのは、たぶん自分が親になったときなのだろうと思います。

京都での四年間を振り返って

中谷 将志

(平23年卒・中国支部)

新型コロナウイルスがますます猛威を振るっている昨今、皆さんいかがお過ごしでしょうか。様々

な行動を制約する必要がある、旅行にも中々行くことができない世の中になってきています。私自身、大学卒業以降、毎年京都を旅行していました。この二年間は行けずじまいとなっています。このようになご時世だからこそ、何気ない日常こそが一番ありがたいのだと痛感しています。

京都に行きたいという欲求が増しているためか、最近によく学生時代の夢を見るようになり、定期鴨川を散歩していたり、定期試験の勉強をしていたり、卒業研究をしていたりと妙にリアリティがある夢です。この度、本会報に寄稿する機会をいただきましたので学生時代に特に思い入れのある場所を紹介してきたいと思えます。

・下宿先

二〇〇七年四月、電気電子工学科に入学した私は、中京区・竹屋町に借りたアパートで下宿生活をスタートさせました。下宿先は、吉田キャンパスと京都駅の間地点に位置し、繁華街である河原町や一級河川の鴨川、京都御所等が徒歩圏内にあるという非常に立地に恵まれた場所でした。近所のお茶屋からほうじ茶の香りが漂ってきたり、「まるたけえびすにおしおいけー」と京都の童歌が廃品回収車のスピーカーから流れたり

京都に住んでいることを実感する住環境でした。

・鴨川

京都市の南北を流れる一級河川鴨川。春は桜、夏は緑の草木、秋は紅葉、冬は雪景色と四季に感じて様々な姿を見せてくれます。見ていて飽きることがないので、四年間の間に三〇〇回以上は散歩したと思います。ところどころに設置されているベンチに腰を掛け、近所のパン屋で購入したサンドイッチを食べながら素晴らしい景色を堪能するのは最高の贅沢でした。

・京劇(ボーリング場)

大学生になって、運動習慣を身に着けようと色々なスポーツに挑戦しましたが、その中で一番はまったのがボーリングでした。河原町の「京劇」というボーリング場は、何ゲーム投げても定額であったため、三時間ぶっ続けでプレイすることもありました。(因みに五年前に旅行で立ち寄った時にはなくなっていました。)一日で三十ゲームプレイしたこともあり、その翌日は、全身筋肉痛で歩けなくなりましたが…。最近では、コロナ渦ということもありボーリングをする機会がめっきり無くなりましたが、いずれまた再開してみようと思えます。



・魅力屋(ラーメン屋)

ポーリングの帰りに必ず立ち寄っていたのが河原町にある魅力屋というラーメン屋です。

本店は一条寺にあり、河原町支店がオープンしたのが二〇〇八年だったと記憶しています。スープは醤油ベースでもあっさりしており、麺はストレート麵を使用しており、何度でも食べたくなる味です。私が住んでいる広島には支店が存在しないのが残念です。いつの日か広島でも魅力屋の味を堪能できる日が来ることを心待ちにしています。

他にも紹介したいスポットが多く存在しますが、紙面の都合上割愛させていただきます。コロナが収束した暁には、再び京都を訪れ、鴨川を散策しながら思い出に浸りたいと思います。

支部だより

中部支部総会報告

令和3年6月12日(土)、オンライン(Zoom)にて令和3年度中部支部総会が開催されました。本部ならびに教室を代表して和田修己先生にご出席頂き、中部支部からは、昭和45年卒から平成31年修士修了の若手まで27名の会員が出席しました。

支部総会は酒井支部長の挨拶から始まり、

・令和2年度の事業報告・決算報告

・役員改選

・支部長

酒井和憲(S55M)

副支部長 小森憲昭(S61M)

総務幹事 小楠幸治(H4M)

会計幹事 下廣大輔(H1M)

顧問 安藤和史(S47)

・令和3年度事業計画・予算審議

の順に、小楠総務幹事の司会のもと、スムーズに議事が進行し、全会一致でご承認をいただきました。その後、来賓の和田先生から洛友会と教室の報告として、吉田・桂キャンパスの近況紹介や、コロナ禍での講義・実験として自宅実験によるオンライン型回路演習に

ついでご紹介頂きました。

例年は懇親昼食会を開催しておりますが、今年度はオンライン開催とのことで支部役員によるパネルディスカッションを実施しました。酒井支部長のコーディネートのもと、下廣会計幹事から直流送電、小楠総務幹事から自動運転、石下連絡員から電池開発、澤田連絡員から名古屋駅再開発とリニア新幹線について順に紹介した後、参加者による意見交換、質疑を行いました。会場は大いに盛り上がりまし

た。中部に根差す各企業が大きく変化してきていると同時に、洛友会の基盤となる電気系技術が社会のつながりを急速に深めていることを皆で実感しました。コロナ禍が収まったあかつきの旅行会として、今年運用が始まったばかりの飛騨信濃周波数変換設備を見学したいという声も出ました。

小楠副支部長による閉会の挨拶の後、有志による交流を楽しみ、今後の会・行事での再会を祈念しながら散会となりました。

河野 弘樹(H8年卒)記



北海道支部総会報告

令和3年度北海道支部総会について、去る6月19日、Web会議にて開催いたしました。

本来は、年に一度の貴重な機会であり、懇親の時間含めて集合開催にしたいところではございましたが、ご存じのとおり新型コロナウイルスの影響を鑑みて、Web会議での開催とさせていただきます。

また、事前に支部総会資料を配布・意見集約を行うことで、Web会議にご参加いただけない支部会員の皆さまからもご意見をいただける形といたしました。

支部総会においては、まず澤井支部長よりご挨拶いただき、昨年より続く新型コロナウイルスの影響の中でも、洛友会北海道支部の繋がりを継続していくことの大切さ等についてお話いただきました。続いて、前年度会計報告、今年度予算案について、各支部会員に確認および承認いただきました。今年度予算案においては、コロナが落ち着いた際に、集合開催する意見交換会を視野に入れており、今後の状況を見ながら検討していきたいと考えております。

最後に、澤井支部長がご異動により転出されることから、支部長交代についてお話いただきました。

た。澤井支部長から後任としてご推薦いただき満場一致での承認を経て、木元新支部長のもとで新しい体制をスタートさせていただくこととなりました。

議事終了後、一人ずつ近況報告する時間をいただきました。皆様、新型コロナウイルスの影響でご不便が多々あるものの、少しずつ環境が改善される等、様々なお話をいただきました。幹事といたしましては、北海道支部は少人数ならではの良さがあることを改めて感じました。



最後になりますが、これまで支部長として長く北海道支部を引っ張っていただいた澤井さまには、深く御礼を申し上げますとともに、ご転出先での益々のご活躍とご健勝を祈念しております。

以上、簡単ではありますが、令和3年度北海道支部総会の報告とさせていただきます。

佐野 大輝 (平16年卒) 記

令和3年度東京支部総会・講演会報告

令和3年6月28日(日)、東京支部総会、講演会を学士会館にて開催しました。本年は昨年より続く新型コロナウイルスの流行状況を鑑み、昨年度秋の講演会で試みた①現地参加と②Microsoft社Teamsによるオンライン参加とのハイブリッド形態で実施することとなりました。

当日の現地参加は11名、オンライン参加は19名で、議案についての意見を交わすことができ、盛会となりました。

【支部総会】

支部総会は午後2時より司会の日比野総務幹事からWeb会議進行方法について案内した後、伊藤支部長による開会挨拶で始まりました。

まず、日比野総務幹事より令和2年度行事・活動報告、佐々木会

計幹事より決算報告が実施されました。活動報告では、昨年一年を通して新型コロナウイルスの影響で、Web会議を駆使しての支部総会、及び現地とWebのハイブリッドで開催した秋の講演会がある一方で、春の見学会、趣味の会、拡大クラスなどの多くのイベントが中止となったことが報告されました。決算報告では、会計監査の結果、収支状況が適切と判断された旨が報告され、承認されました。

次に、令和3年度役員として、支部長 尾上誠蔵(S55)、副支部長 北條 博史(S56)、幹事 平山明(S57)、総務幹事 佐々木純(H14)、会計幹事 南川敦宣(H15)、庶務幹事 増崎隆彦(H13)、若手交流会幹事 日比野勉(H13)の就任が承認されました。その後、伊藤前支部長から退任のご挨拶、尾上新支部長から就任のご挨拶がありました。

伊藤前支部長からは、昨年1年通して見舞われたコロナ禍で起きた生活態様の変化にふれ、オンラインでのイベント開催等の良い面を今後も継続して取り入れつつも、見学会や趣味の会といった直接対面での交流が人生を豊かにする上で重要であることなど、withコロナでの同窓会の在り方についての考えを、今後への期待とともに述べられました。

尾上新支部長からは、先行き不透明な状況下においても、オンラインと現地のハイブリッド形式でのイベント開催等で同窓会を進化させていきたいこと、また若手の参画を引き続き促進していくことなど、今後の抱負として述べられました。

続いて、令和3年度行事・活動計画と予算計画について佐々木新総務幹事より説明がありました。計画説明の中では、秋の講演会については、昨年同様参加人数を絞った集合形式とWeb配信のハイブリッド形式で開催予定であること、見学会他、現地開催については感染拡大状況を踏まえ、実施方法も含めて検討中であること、その他の活動計画についても登録会員数向上施策、若手活性化施策、支出削減策に継続して取り組むこと、また趣味の会・拡大クラス会のオンライン開催支援にもふれられ、承認されました。

最後に、令和3年度に米寿を迎えられた伊藤 貞男様(昭和32年卒)、安原 碩人様(昭和33年卒)、喜寿を迎えられた浜口 友一様(昭和42年卒)、山本 武様(昭和43年卒)のお名前が紹介され、拍手とともに会議参加者より祝意が評されました。現地参加された伊藤 貞男様より代表として一言挨拶を頂きました。

【講演会】
講演会では京都大学名誉教授の守倉正博様より「Wi-Fiの進化と今後」と題して1時間ご講演いただきました。

講演冒頭では昨年の新型コロナウイルス発生以降に起きた社会変化について通信トラフィックの観点からふれ、リモートワークや遠



尾上新支部長



伊藤前支部長

隔会議の普及といったwithコロナ時代の新たな生活態様に通信技術の発展が寄与していること、一方で意思疎通の難しさの面ではまだ技術改善の余地があることを述べられました。

次に研究を開始された1997年当時のWi-Fiの使い勝手の悪さから、移動体セルラーと区別して自律分散型NWとして進化してきた歴史的背景を説明されました。また当時から国際標準化活動に関わられた経験の中で、AppleやBoeingといった海外企業が20年前から無線LANの使い方を提案しており標準化組織に強く要望を出していたことにふれ、技術の良さだけでなく、それを使って社会をどう変えていくかといった政策面まで反映していく海外企業の姿勢を、日本企業も学んでいかなければいけないと述べられました。

その後の標準化活動の変遷の中で、現在はHuaweiが圧倒的に人を出しており、昔は欧米中心だった業界の力関係が20年で大きく変化してきたこともふれ、日本も世界に遅れることなくIEEEやWiFi Allianceといった標準化団体に人を出していくこと、そのための人材育成の重要性を訴えました。

最後に5G/Beyond 5



守倉名誉教授



現地会場

G時代におけるWi-Fiに求められることとして、自律分散で低コストであるメリットを生かして、今後のインフラを支え進化し続けることを述べて講演を終えられました。講演後は現地の参加者から質問が寄せられ、予定時間を超える活発な質疑応答の後に閉会となりました。

令和二年度会務報告
・令和三年度予算
・支部役員の改選
について審議を行ない、いずれも承認されました。このうち、支部役員については、前任の
宮本 喜弘(昭60)
に代わり
植原 宣和(昭63)

【報告】
会計幹事 南川 敦宣(平15年卒)
四国支部総会報告
令和三年度の四国支部総会につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、昨年に引き続き、書面(電子メールまたは郵送)での開催としました。本年度は、



が、新たに幹事に就任しました。今後の支部活動については、新型コロナウイルス関連の情勢から、現時点では見合わせておりますが、こういった状況下でも可能な活動がないか、他の支部様で取り入れている手法等も参考にしながら検討・実施していきたいと考えております。引き続き、活発な支部活動ができるよう、事務局一同知恵を絞りたいと考えておりますので、会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております！

美馬 圭介(平21年卒) 記

訃報

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

| | | |
|-----|-------|--------|
| 昭21 | 吉田 潔 | 3・5・14 |
| 昭27 | 森岡 健 | 3・8・8 |
| 昭29 | 山中 靨 | 3・4・8 |
| 昭41 | 松井 捨和 | 3・6・27 |

